

きよ すみ てい えん
清澄庭園
Kiyosumi Gardens

岩崎家三代が築いた名石の庭



スタンプ欄

都指定名勝
清澄庭園

■開園年月日
昭和7(1932)年7月24日

■開園面積
81,091.27㎡
〔内訳 庭園 37,434.32㎡
開放公園 43,656.95㎡〕

■開園時間
午前9時～午後5時
(入園は午後4時30分まで)
※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。

■休園日
年末年始(12/29～1/1)

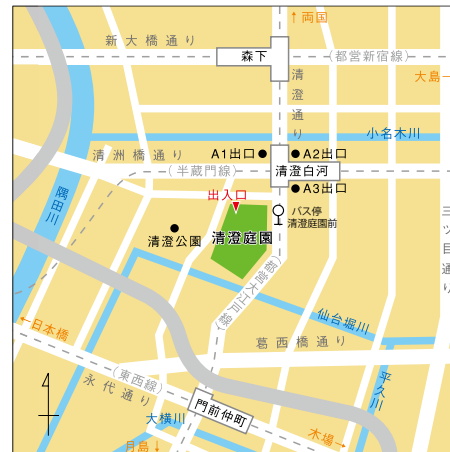
■無料公開日
みどりの日(5月4日)
都民の日(10月1日)

■庭園ガイド(無料)
土曜日、日曜日、祝日(午前11時・午後2時の1日2回)

【お問合せ先】
清澄庭園サービスセンター
☎03-3641-5892
〒135-0024 東京都江東区清澄3-3-9

	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (清澄庭園)	年間パスポート (9庭園共通)
入園料	一般	150円	120円	600円
	65歳以上	70円	50円	280円
無料	小学生以下及び都内在住・在学の中学生 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方			
集会場 (貸室)		①午前の部 9:00～12:30	②午後の部 13:00～16:30	③夜間の部 17:00～20:30
	涼亭(40名)	5,500円	5,500円	5,500円
	大正記念館(150名)	25,900円	25,900円	25,900円

※6ヶ月前の同日午前10時から受け付けます。※開園時間内にご利用の場合は、別途入園料が必要です。



【交通のご案内】

《電車》
都営大江戸線・
東京メトロ半蔵門線
「清澄白河」下車徒歩3分

《バス》
都営バス
亀戸駅北口7番乗場(門33)・
豊海水産埠頭行き
「清澄庭園前」下車
徒歩3分

※駐車場はありません。

公園へ行こう!
発行:文化財庭園課 TEL.03-3232-3018

検索

お客様サポートセンター(協会事業全般に関するお問い合わせ)
TEL.03-3232-3038 ※8:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除く)
指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会
http://www.tokyo-park.or.jp



※花の開花時期は、その年の気象状況などにより左右されますのでご了承ください。

文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【庭園からのお願い】

- ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動植物の採集、敷物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。
- 喫煙は園の指定した場所で行います。
- 写真撮影、写生は建物・添景物保護の為に断りする場所があります。
- 文化財は定期的な保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。

都立文化財9庭園

- 浜離宮恩賜庭園
- 旧芝離宮恩賜庭園
- 小石川後楽園
- 六義園
- 旧岩崎邸庭園
- 向島百花園
- 清澄庭園
- 旧古河庭園
- 殿ヶ谷戸庭園

緑陰の水面に歴史を映す、明治の代表的「回遊式林泉庭園」。 全国の名石を配した池を巡れば、四季折々の表情が楽しめます。

一説には江戸の豪商、紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と伝えられています。享保年間(1716~1735年)に下総国、関宿藩主久世大和守の下屋敷となり庭園のもとが形造られました。

明治11(1878)年に岩崎彌太郎がこの邸地を含む一帯約3万坪を取得し社員の慰安や貴賓を招待する場所として造園を計画、明治13(1880)年に「深川親睦園」を開園しました。その後も造園工事は進められ、隅田川の水を引いた大泉水をはじめ築山、周囲には全国から取り寄せた名石を配して明治の庭園を代表する「回遊式林泉庭園」として完成しました。関東大震災後、大正13(1924)年、震災被害の比較的少ない東半分が岩崎家から東京市に寄付され、「清澄庭園」として復旧、整備して、昭和7(1932)年7月に東京市の公園として開園しました。また、昭和52(1977)年には、庭園の西側に隣接する敷地を開放公園として追加開園しました。昭和54(1979)年3月31日に、「清澄庭園」は東京都の名勝に指定されています。

※なお、大正12(1923)年9月の関東大震災や昭和20(1945)年3月の大空襲の時には避難場所として多くの命を救いました。

だいせんすい 大泉水 三つの中島を配した広い池。水面に島や数寄屋造りの建物、樹々の形を映し出すこの池は、庭園の要です。昔は隅田川から水を引いていました。そのため潮の干満によって池の景観が微妙に変化したといわれています。現在は雨水でまかっています。



めいせき 名石

伊豆磯石、伊予青石、紀州青石、生駒石、伊豆式根島石、佐渡赤玉石、備中御影石、讃岐御影石。これらは庭園に据えられた庭石の代表的なものです。このほか数石や橋、磯渡り、枯滝の石を含め、園内には無数の石が配置され、さながら「石庭」の観を呈しています。これらの石は、岩崎家が自社の汽船を用いて全国の石の産地から集めたものです。

ふじさん 富士山

この庭園で最も高く大きな築山。関東大震災以前は、この築山の山頂近くには樹木を植え、サツキやその他のツツジ類の灌木類を数列横に配して、富士山にたなびく雲を表現したものだと言われています。



通年見られる野鳥：カイツブリ、キジバト、ヒヨドリ、オナガ、ムクドリ、シジュウカラ、アオサギ、ゴイサギ、カワウ、ユリカモメなど
夏の野鳥：コアジサシ、ツバメなど
冬の野鳥：キンクロハジロ、ホシハジロ、オナガガモ、ヒドリガモ、など



ばしょうくひ 芭蕉の句碑

「古池や かはづ飛び込む 水の音」。松尾芭蕉の最も有名なこの句を刻んだ石碑が、園内に立てられています。



りょうてい 涼亭 池に突き出るようにして建てられた数寄屋造りの建物。これが、この庭園を日本情緒豊かなものにしていきます。涼亭は、明治42(1909)年に国賓として来日した英国のキッチナー元帥を迎えるために岩崎家が建てたものです。震災と戦火の被害からまぬがれ今日に至りましたが、昭和60(1985)年に全面改築工事を行いました。集会場として利用できます。平成17(2005)年には「東京都選定歴史的建造物」に選定されました。

いそわた 磯渡り

池の端に石を点々と置いて、そこを歩けるようにしたもの。広々とした池の眺めが楽しめるだけでなく、歩を進める度に景観が変化するように配慮されています。



たいしょうきねんかん 大正記念館

大正天皇の葬儀に用いられた葬場殿を移築したもの。しかし、最初の建物は戦災で焼失したため、昭和28(1953)年に貞明皇后の葬場殿の材料を使って再建され、平成元(1989)年4月に全面改築されました。集会場として利用できます。



● 車いす通行可ルート
— 歩行可の石
■ 集会場(貸室)

